

## 2006年度総会報告

平成18年度総会・講演会が、平成19年3月31日(土)、名古屋工業大学1号館K-1教室において80名の参加により開催されました。水口理事長による開会挨拶・総会に引き続き、中部経済産業局 地域経済部情報政策課課長補佐 近藤典保氏による基調講演1「平成19年度 IT経営応援隊事業について」と、名古屋工業大学大学院教授 石橋豊先生による基調講演2「触覚メディア通信技術と近未来ビジネスにおける応用」の2つのご講演をいたしました。最後に、実行委員長でもある水口理事長から「IT経営カンファレンス in Nagoya」プロジェクトの進捗報告がありました。

総会においては、平穏な雰囲気の中で、以下の6議案が可決されました。

- 第1号議案 平成18年度活動報告
- 第2号議案 平成18年度決算報告
- 第3号議案 平成19年度基本方針
- 第4号議案 平成19年度予算案
- 第5号議案 各委員会事業報告及び事業計画
- 第6号議案 平成19年度役員選任の件

基調講演1では、平成19年度における中部IT経営応援隊活動の以下のような計画について解説していただきました。

- IT活用・利活用の成功事例を20社程度発掘する
- 金融機関とのネットワーク形成(12金融機関以上)を行う
- IT経営応援隊事業を人口30万人以上の市町村へ拡大する
- 部門内最適化企業を組織全体最適化企業に引き上げる

特に独立系ITCの方々には有益なお話であったと思います。

基調講演2の「触覚メディア通信技術」という耳慣れないテーマの話に最初戸惑いましたが、要するにバーチャルリアリティ(仮想現実)の一部と考えて良さそうです。実際にはそこに無いものがそこにあるかのような感触を得ることができるようになる通信技術のことのようです。

## IT経営カンファレンス in NAGOYA（運営・事例発表）

私は、たまたま昨年度ポイント委員長であったことから、IT経営カンファレンス2007 in Nagoyaの運営委員長を引き受けるハメになってしまいました。

ITMC-PJ会議（カンファレンス全体のプロジェクト会議）において、運営委員会のスコープが明確になり、イベント、ITソリューションフェア、セレブションが我々のスコープ外となり、何か気が楽になったものの、私はこのような大きなイベントの運営をしたことは無く、戸惑いながらも、概ね以下の考え方、手順で準備を進めました。

- ・当日のお客様の流れ、VIP/講師の流れを意識しながら、何がどのように準備されているべきかを徹底的に事前検討して事前にやっておくべきことを明確にし、各メンバーに作業分担する。

- ・それらを踏まえて、過去のイベント実施運営マニュアルを参考にして、「IT経営カンファレンス2007 in Nagoya」のマニュアルを作成する。

最初は、受付の仕方や記章にVIP名を書く筆ペンの種類のような細部の検討まで自分で行っていたため、自分がバッテリーアクセスした車を押すような大きな負担を感じていましたが、作業分担後はメンバーに自発的に検討を進めてくれるようになり、徐々に負担が減り、最終的にはエンジンがかかった車に乗っているような気分で、全体の様子を見られるようになりました。

当日に至っては、全ての業務を他のメンバーに分担していただき



ラブリークイーン株式会社様の事例発表

いたので、私は具体的な作業分担を持たず、若干心配しながらぶらぶらしているだけの時間を過ごさせていただきました。

小さな失敗はいくつもあり、それらについては、謙虚に反省しましたが、結果的にカンファレンスは大成功であったと思います。運営委員会メンバーおよび他の協力者の方々が、自分が描いたシナリオの穴を埋め、想定以上の働きをされたことが、最大の成功要因だったと思います。ITC中部の皆さん的力量を再認識させていただきました。

（ITC中部 磯部 秀敏）

## IT経営カンファレンス in NAGOYA（展示会・セレブション）

私たち企画委員会は、ITソリューションフェアとITソリューションセミナー、セレブションパーティの担当をしました。ITソリューションフェアとは、IT展示会のことです。

出展企業を募り、展示スペースをレイアウトし、お客様の流れを考えた配置をして、展示会を成功に導く…。

企画委員会のメンバーは、ITベンダー系のSEや独立ITC、税理士で構成しており、展示会の企画実行の経験は皆無です。そんな状態の中で、まさに手探りで展示会の企画を行いました。毎週毎週集まつては企画検討し、出展企業の募集要項、展示会スペースの検討、展示ブースの組み合わせ、それらをまとめた展示会要領を書類に起こし、出展企業への説明会を行う。

また、出展企業にはオプションとして、セミナーを開催できるようにして、その時間枠を配分する、などなどひとつづつ問題をクリアしてきました。

また、それと同時にセレブションパーティの検討も行いました。キャッスルプラザの鳳凰の間で開催することになり、料理の検討、セレブションパーティの内容、議事進行などを決めました。目玉はソプラノ歌手のオペラです。伴奏のピアニストの方と共に、名古屋で活躍されている方々にお願いすることが出来ました。こうしてなんとかカンファレンス前日を迎えることができました。

前日は、大雨と雷で大変な天気の中、夜6時から展示会の設置が始まりました。展示ブースが組み付けられて、各社のブースが出来上がり、夜10時に展示会場が完成しました。



セレブション

当日は、午前中から各社の飾りつけが始まり、いよいよ昼からITソリューションフェアの開始です。ホールでの講演の合間に展示会場へ案内し、通常開放しない扉を開けて人の流れを作ったこともあり、大盛況のうちに終了いたしました。

ただ、セミナーは、講演と重なったために人の入りが少なく大反省しております。セレブションも大盛況で、みなさまに楽しんで頂けたと自信しております。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

（ITC中部 稲崎 俊一）

## イベント：トヨタコース

カンファレンス前日、営業利益2兆円の超優良企業“トヨタ自動車”の工場を見学しようと全国各地の企業経営者やITCが名古屋駅に集まりました。貸切バスは満席状態で、一部の人は補助席に座っていましたが、なかなか盛況でした。

正午前に名古屋を出発し、一路豊田市へ。車中では名古屋名物の天むす弁当を食いつつ、経済産業省の伊藤様の講話を拝聴しました。その後予定よりも早くトヨタ自動車本社エリアにあるトヨタ会館に到着。「環境と感動」「安全と自由」「品質と効率」「企業と社会」「モータースポーツ」などのテーマ別展示にトヨタの力（幅広さ、奥深さ、安定感）を感じました。また、運良く二足歩行の“パートナー・ロボット”によるトランペット演奏や、パーソナルモビリティ“i-unit”的デモ走行も見学することができ、未来に向けた夢のある先進的な取り組みもしっかりと目にすることが出来ました。

そしてお待ちかねの工場見学。本社近くの元町工場へ移動し、組み立て工場と溶接工場を見学しました。工場内には限なく見学

者専用の歩道橋が掛けられており、生産ラインが眼下に手に取るように見えました。「かんばん方式」など普段頭で理解しているはずの言葉を実感として捕えることができ、百聞は一見に如かずとはこの事かと痛感しました。

その後、名古屋へ戻り鍋屋バイテックコースの皆さんと合流し、産業技術記念館を見学しました。織維産業から始まる当地の“ものづくり”的歴史に触れることが出来ました。

（ITC中部 小笠原 直樹）



二足歩行ロボットとi-unit

## イベント：鍋屋バイテックコース

全国からの参加者の皆さんに、中部のものづくりの現場を体感し、経営革新の実例に触れていただこうと、カンファレンスの前日、7月8日（金）、遠くは熊本や岩手の参加者を含む総勢28名で、鍋屋バイテックの工場見学会を実施しました。チャーターした観光バスの車中、同行いただいた中部経済産業局情報政策局の近藤課長補佐による、情報化政策の講話を拝聴しました。その後、企業研究のビデオを観ながら名古屋名物「天むす弁当」で、あつという間に岐阜県関市の現地へ到着しました。

公園のような工場を目指そうと、「関工園」と命名された事業所は、緑豊かな山あいにたたずむ斬新なデザインの建物群で、まさに自然環境とハイテクとの調和を印象づけられます。35年も前からこの工場建設の志向が始まっていたということは驚きです。しかし、この会社の真髄は、「寿司バー・コンセプト」と呼ばれる、多品種微量生産の追及であり、産業用動力伝動プーリーでの国内シェア8割という実力です。自社開発の生産設備、受注当日生産、出荷

をささえる業務の標準化と生産、ロジスティック管理のITシステムも優れたものでした。「5S」のスローガンなどどこにも掲示されていないのに整理整頓が行き届いた工場内、効果的な人事ローテーションや自己啓発の奨励による人材開発、家族的な社内イベント、地域への文化貢献活動など、従業員も高いモチベーションで仕事をしていることが伺われました。

帰路途中、トヨタ産業技術記念館でも、ものづくり愛知の歴史にも触れられた充実の一一日でした。

（ITC中部 吉田 信人）



岡本会長の講演

## 交流会

6月8日（金）『ITC経営カンファレンス』のイベント（トヨタ自動車様・鍋屋バイテック様工場見学、産業技術記念館見学）終了後、ホテル キャッスル プラザ（名古屋市）のレストラン『ビストロ・ドファンドール』にて、広報委員会主催で全国から来名のITCの方々と交流会（懇親会）が開催されました。

全国のITC18名とITC中部の広報委員7名の合計25名が参加しました。全国ITC18名の内訳は北海道、岩手、富山、奈良、大阪、兵庫、広島、愛媛、長崎、熊本と北から南まで色々な地域のITCが参加して頂きました。その中で、広島と熊本は昨年と一昨年にITC中部の広報委員会が「他地区ITCとの交流会」で訪問した組織からの参加でした。

2時間余りでしたが、多くのITCの皆さんと交流出来たお陰で、全国各地区のITC活動の状況や大変有意義な情報交換が出来ました。また、参加したITCの職種も独立コンサルタントから税理

士、各地区的ITC組織事務局と、多岐にわたり各自の立場でITCの資格をどう生かしているかも非常に興味ある内容でした。

今後も広報委員会として、この全国のITC交流の輪をさらに広めていきたいと考えております。

（ITC中部 広報委員会 和澤 功、日比 政博）



交流会